

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
かのん		2026年 1月 29日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		療育、宿題、遊ぶスペースを分けている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		国が定めた人員配置を行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		児童の視覚などを配慮し、刺激が少ないように配慮している。	バリアフリーを必要とする児童が利用していないことと、一戸建てのため難しい
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		人の手に触れるところやおもちゃ、道具は日常的に消毒を行っている。また、活動に合わせた空間となっている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		個別の部屋はある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		月例の会議だけでなく、日常の業務の間でも告・連絡・相談を行い全職員で共通理解を計っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		全ての保護者に評価表の記入をお願いし、ご意向を把握するように努め、全職員で共通理解し改善策を考えている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		月例の会議だけでなく、日常の業務の間でも報告・連絡・相談を行い共通理解を計り業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	第三者による外部評価は行っていない。	今後必要であれば検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		内外の研修に積極的に参加し、その内容を伝えて業務改善に活かしている。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		個々の児童に適した支援プログラムを作成し、公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		日程希望の用紙に要望など事前に書いて提出してもらい、要望に添って職員全員と課題など分し、作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		常に日々の出来事を共有している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		モニタリング会議を実施し、すべての職員で話し合い放課後等デイサービス計画を作成している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		全ての児童の放課後等デイサービス計画は加除があるたびに話し合い、全職員で共有し実施している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する事から得られた情報は全職員で共通認識している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		児童の現状や特性を考慮した上で必要な項目を設定し具体的な支援を設定している。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		全職員で話し合い立案している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		児童の現状や特性を考慮した上で個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		朝の打ち合わせの際に、全職員でその日の送迎や集団療育の確認、個別療育を行う職員の振り分け、保護者、児童についての共通認識など話し合い、チームで連携して支	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		終業の打ち合わせは毎日行っている。その日居ない職員には次の日の朝の打ち合わせで伝えている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		個別や集団療育については、進捗だけでなく助言内容や担当者の気づきを連絡帳に記載している。その他の申し送りが必要なことについてはメモしておき、支援の検証や	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		保護者に施設にお越しいただき、定期的にモニタリングを行い、適切な見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		支援内容は放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ児童に合わせた支援を行っている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		自己決定できるように比較する支援、グループワークなど自己決定とともに協調性も身に付ける支援を取り組んでいる。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		子どもの状況をよく理解した者が参画し、その後、職員間で情報伝達している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		必要に応じて支援体制を整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		必要に応じて連携を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		情報共有と相互理解に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		5	今はないが、移行する利用者がいた場合、必要に応じて行っていく。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		必要に応じて外部の研修の受講や、講師を招いての研修を受けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		5	地域の学校、保育園、幼稚園に通っているので、今後も交流活動は考えていない。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		5	必要な場合は参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		定期的に行われるモニタリングの時だけでなく、日々の送迎の際に、今日できたことや取り組んでいる課題について保護者に伝えている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		5	個別に助言したり相談を受けたりしているが家族で参加できる研修はしていない。	今後は、保護者向けの研修会は検討していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		今後も継続し、実施していく。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		日々の送迎の際やメール連絡の時に、家族の意向をお聞きするようにしている。子どもについては、療育活動の合間に、困っていることや、できるようになりたいことなどについて聞き、意向を確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		保護者の意向を踏まえ計画し、丁寧な説明を行っている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		家族からの相談など、電話または面談にて対応している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		5	保護者が希望していないので、現時点では考えていないが、要望があった場合は、対応することも考えたい。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		児童や保護者の話をよく聞き、迅速かつ適切に対応できるように、情報の共有化や共通理解をしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		5	今後も情報発信に努める。	今後活動などSNSで発信できるようにしていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報に記載されている紙ベースのものは全てシュレッダーにかけている。また、USB等による情報の持ち出しはしていない。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		メールや電話連絡だけでなく、送迎時に短い時間でも保護者と話すようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		事業所自体が行事など行っていないので、地域の方を招待することが難しい。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		内容に変化を持たせながら、実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		年間2回の避難訓練、研修を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		間違いがないように、全職員で確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		保護者の指示にて対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全管理に配慮し、支援している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		取り組み内容を精査し、変更が必要な時にはご家族に周知し、協力していただいている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		毎日の取り組みで発生が予測できる事案に対して、朝の打ち合わせで共通認識し、対応を考えている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待に特化した研修を年間2回実施し、職員の見識を高めている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		利用契約時に同意書をもらい、同意書の説明を行っている。支援計画書にも記載している。	